

「室内空気汚染に関する相談」について
現場調査、測定立場から

シックハウスを考える会 理事
三精塗料工業株式会社
桔梗谷 正

現在、シックハウスを考える会と、住環境医学研究会がタッグを組んでシックハウスアドバイザーの上級資格として「現場調査士」の資格化に向かって努力されています。この現場調査について昨今感じていることを記させて戴きます。

現場調査士の仕事の流れとしては、依頼者から相談を受け、現状把握の為に室内空気質の測定、使用建材等の調査を行い、次いでシックハウス改善のための処方箋を作成し、リフォーム等の改善処置を行う、といった手順になります。

の相談については、単に体調が悪いので原因を調べて欲しい、次いで、リフォームの相談に乗って欲しいというものから、体調不良の原因は建築業者がつくったので業者と交渉するにあたり間に入って欲しいといったものまであります。難しいのは、後者の様に相談者が自分に替わって交渉してくれることを期待及び要求されることです。現場調査に関してはあくまでも中立の立場に立つことと、交渉に際し必要な情報の収集の手伝いを行い、アドバイスはすべきですが、交渉自体は基本的には本人が行うものであることをご理解戴きたいです。

又、基本的には体調不良があるので相談されるのですが、まずその症状を専門医に見てもらい、医学的な緩和の措置をとることが必要です。

シックハウスの原因としては、揮発性有機化合物（VOC）による空気質の汚染が原因となる場合が多いと思われませんが、これ以外に、水質汚染、食品添加物といった化学物質や、臭気、光、音、震動等の物理現象に由来するもの、カビやダニ、害虫、ネズミ等の生物に由来するものも複合的に影響します。従って、測定自体も単なるアルデヒド類やVOCのみではなく、トータルとして行う必要があります。

相談も、体調が悪い原因として、既に答えを用意して、明確な疑問として尋ねてくると、原因が分からないので調べて欲しいという場合があります。前者の場合、測定しても依頼者が期待する答えが出るとは限りません。後者の場合でも、昨今は昨年の建築基準法の改正に伴い、建材自体から発生する物質は指針値のある物の濃度はかなり減少してきており、指針値や規制値の見地から意見を具申することが困難な場合が増えていきます。指針値はクリアしているのに体調が悪い。。。測定の立場からすると改善に対する答えに窮する場合が増えていきます。

改善については、原因を除去することが必要ですが、その原因は、各々のケースにより異なっています。かつては、ホルムアルデヒド濃度が高ければそれが悪者で、ホルムアルデヒドを発生する建材を除去すれば解決出来る場合が多かった様ですが、上記のように低濃度でも体調が悪いという例も多いです。又、最近は、ホルムアルデヒド濃度が低くなってきているので、次に悪者にされているのがトルエンとキシレンです。これらの濃度が高いと、鬼の首を取ったような記事を書くマスコミにも問題がありますが。。本当にこれらだけが犯人とはどうも考えにくいと思っています。

さて、従来から住んでいた家で体調が悪くなった場合には、きっかけとなった事項を洗い直す必要があります。防蟻処理をした、壁紙をリフォームした、新しい家具を購入した、

隣が新築した、等の状況の変化が原因となっている場合もあります。

並行して原因となっている住環境の改善ですが、当面は、まず換気がポイントです。依頼を受けて測定に行っても、最近の建築物は高気密高断熱で換気を積極的に行わないとほとんど空気が動きません。いくらF₂の建材を使っても、これはあくまでもホルムアルデヒド濃度に関する規制であり、その他の化学物質に関しては無頓着(?)です。

せっかく24時間換気システムが在るにもかかわらずデベロッパーがその指導をしなかったため換気を止めて生活したため、体調不全になった例も多くあるようです。濃度的には換気により大幅に改善される例が多いです。

それと最近では臭気に対して敏感(過敏)になっている場合もある様です。「病は気から」といわれますが、異臭を感じた時点で体調が悪くなることも有るようです。これについてはお医者様の範疇になりますのでこれ以上の言及は避けます。

化学物質というと、悪者扱いされますが、この世の中に存在するものは全て化学物質です。水、空気、食べ物全て化学物質です。生き物のエネルギーの基本である糖分も採りすぎると糖尿病になります。薬にも副作用があります。良い点と悪い点を十分に考慮してベターな選択をすることが必要です。人工物全てを悪者にするのは簡単ですが無意味です。ただ、人に対する毒性を考慮して選定することは重要で、利点欠点をよく考慮に入れて巧く付き合うことが大切です。

いずれにしてもシックハウス対策は非常に複雑になってきており、リフォームにしても実際に住んでおられる人とのキャッチボールをしながら、人間関係を形成しつつ、かつ使用する各建材について、その都度確認しながら工事の進行を行うこととなります。(これは大手のディベロッパーよりも地元の工務店さんの方が得意な事ではないでしょうか? 生き残りのひとつの方法になるかもしれませんね。)

従って、シックハウス対策の新築やリフォームには普通の工事と比べて大幅に費用と時間を要します。納得ずくで仕事を進めなければ後々憂いを残します。手抜きは許されません。

又、上記のように単に相談といっても、実質的にはかなりのコストが必要となります。測定ひとつについても、精密測定の場合には、10万円の単位の費用がかかりますし、リフォームとなると上記に述べたような手順を踏むと、普通の工事と比べても割高となります。

しかしながらシックハウスを考える会としてのリフォームの事例も徐々に出てきています。成功事例も失敗事例も参考になります。シックハウスを考える会では使用する(使用出来る)建材のデータベースのみならず、工事に関するデータベースの構築も構想に入っています。一緒に勉強し、一緒にデータベースを完成させてゆきましょう。